

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 K.S
所属 生命環境科学域 理学類
学年 2

留学先 マラヤ大学 (マレーシア)

留学期間 2019/8/18~2019/9/8

記入日 2019/9/15

留学レポート Study Abroad Report

8月18日から9月8日までの約3週間、語学研修でマレーシアのマラヤ大学に短期留学しました。下に研修プログラムの参加を決めたきっかけ、研修の内容、主なアクティビティ、研修を通して学んだことについて書きます。

この研修プログラムの参加を決めたきっかけは、海外での英語運用能力を高めるだけではなく、将来海外の大学に長期留学して研究活動を行うことを見据え、今回の短期留学を最初のステップにしようと考えたからです。また、初めての海外渡航でもありましたので、現地の様子について入念に調べた上で準備を整えてきました。

マレーシアに到着するとすぐにローカルバディと合流でき、そのまま寮まで引率してもらえました。ローカルバディの方々はとても明るく、気軽に会話することができました。もちろん相手は公用語のひとつでもある英語を話すことに慣れているので、最初は聞き取ることが難しかったですが、次第に慣れることができました。現地の気候は少し暑かったですが、日本ほど湿度が高くないので、比較的快適に過ごせました。ただ、スコールはしばしば起きていたので、雨具は常備していました。

研修プログラムでの午前の授業は、“Writing and Composition”, “Grammar Usage”, “Reading and Vocabulary”, “Speaking and Pronunciation”という4種類の英語科目と、マレーシアの地域や文化、宗教について理解する“Malaysian study”がありました。授業は全て英語で行われるので、初めて聞く単語が出てくるのはもちろん、最初の段階でどの内容を話しているかわからず、しばらく時間を経てやっと内容が理解できることがしばしばあったので、授業中は一切気を抜くことができない状況で大変でした。しかし、扱う内容は日本で学んできた英語の授業ほど複雑なものではなく、先生も英語を使ったゲームを取り入れながら授業を進めていたので、飽きることなく能動的に取り組むことができました。例えば、授業で決められたテーマについて4~5人のグループ内で意見を交換し1枚の紙に集約して発表する時間や、グループごとに異なる課題について議論する時間などがありました。午後はマレーシアの伝統文化を体験する Traditional Dance and Music、マレーシア料理の調理実習、学外の博物館見学などを行いました。Traditional Dance and Music では Music を選択したので、そこでマレーシアの伝統楽器(日本でいう木琴と鉄琴のような楽器)を演奏しました。また、プログラムの終盤には現地の小学生と交流する機会があり、そこではお互いの国で昔からある遊びを教え合い、さらに小学生達は歌を、自分達研修生は劇を披露しました。劇は研修期間中の空き時間を使って練習を重ね、小学生達も楽しそうに見てくれたので練習した甲斐があったなと実感しました。

土日はクアラルンプールやマラッカの観光、田舎でのホームステイ体験など、参加者全員で学外地域でのアクティビティを行いました。そこでは普段授業クラスが異なる学生やローカルバディとも交流ができ、外で英語を使う機会も多かったです。

プログラムの最終日には各授業の修了テストとクロージングセレモニーがありました。修了テストの範囲は全て授業内で扱った内容であり、授業中でも何度か演習をした部分ではありましたが、難しい問題もいくつかあり、大変でした。試験の後に行われたクロージングセレモニーでは、民族衣装を着て修了証書の授与、各自 Traditional Dance and Music で選択した方の発表がありました。そして、研修プログラムを全て終えたという達成感を多くの仲間と共有することができました。

この研修を通して学んだことが主に2点あります。1つ目は自分が表現したいことを英語で表現することの難しさを現地で改めて実感したことです。これは英語運用力における研修前の準備不足もありますが、伝えたい言葉が英語ですぐに言えず、突然話しかけられたときに英語でうまく対応できなかったことがありました。2つ目は英語で授業を受けることで、自分の意見や感想を英語で考える機会が増えたことです。外国語をうまく話せるようになるには、物事をその外国語で考えるとよいという話を以前から聞いたことがあり、研修で実践してみました。慣れないので意外と難しく、日本人学生と話すときは日本語だったので、常にそうしたことができたわけではありませんが、海外の生活のなかで今までとは異なる英語の使い方に挑戦することができました。

もちろん研修中に大変だと感じたことはいくつかありました。例えば、マレーシアの気候の特性上急で強い雨(スコール)が降りやすく、そうした状況によく立ち会ったり、イベントの急な変更で指示待ちの状態になったりすることもありました。しかし、海外を訪れたことのない自分にとって、この研修プログラムは国や地域を問わず多くの学生と交流でき、より広い見方で勉学に励むきっかけとなりました。そこで得られたものは非常に大きいです。

海外の留学を検討している学生に伝えたいことがいくつかあります。まず、長期留学に不安がある人はこのプログラムのように数週間程度の研修を経験してから長期に挑戦することをおすすめします。短期の研修だけでは学ぶことに限りがありますが、少しでもよいので海外で勉強することに慣れておいた方が不安も感じにくくなると思います。次に、現地ではなるべく英語で積極的に会話をしてみてください。英語も現地では1~2単語や名詞だけで通じる場合が多く、応答だけだとあまり文章で話す機会がありません。ですから、文章で会話することを意識してみましょう。

この語学研修プログラムに参加し、無事修了できた背景には、親の協力や、国際交流課の支援、そしてローカルバディのサポートなど、多くの支えがあったからでもあります。この感謝を忘れることなく、自分が定めた目標へと突き進んでいきます。



ルームメイトとの集合写真



プトラモスク(イスラム礼拝所)



伝統美術の体験



研修生全体の集合写真